

会場案内図

第23回

なんばたじょうこうえん

難波田城公園まつり

2025年6月1日(日)

午前10時～午後3時

昔体験コーナー〈旧大澤家住宅〉
 はたおり(資料館友の会木綿部会)
 // (ふじみ手織りの会)
 拓本(資料館友の会拓本部会)
 竹細工(資料館友の会竹かご部会)
 自転車紙芝居(難波田紙芝居一座)
 ①11時～ ②12時30分～ ③13時30分～
 ※雨天の場合は、
 ①10時10分～ ②12時～ ③13時30分～

資料館特別展示室
 企画展「東上線開通110年」

芸能発表プログラム

- 10:00～10:10 セレモニー
- 10:10～10:30 ★南畑小学校鼓笛隊
- 10:30～11:00 東中学校吹奏楽部
- 11:00～11:30 富士見高校ジャグリング部
- 11:30～12:00 Crescent(キッズダンス)
- 12:00～12:30 ★舞鼓(和太鼓)
- 12:30～12:40 なんばったと記念撮影

※時間は目安です。★印は雨天の場合、中止となるもの

昔の遊び
 割箸でっぼう作り
 射的・★竹馬・
 ★お手玉等
模擬店
 駄菓子・ミニほうき・
 植物素材手芸品・
 メダカすくい
 ★印は雨天の場合、
 中止となるもの



芸能発表
 〈旧金子家住宅〉

本部・模擬店
 来賓受付・救護所
『御城印(ごじょういん)』
販売コーナー』

※模擬店販売品目
 パン・うどん
 焼きそば・そぼろ丼
 焼き団子・まんじゅう
 ラスク・わたあめ
 飲物・茶葉
 花など



ひなわじゅうえんぶ
火縄銃演武

出演 川越藩火縄銃鉄砲隊保存会
 時間 午後2時から
 (八幡神社で1時から出陣式・武者行列)
 ※矢印方向に向けて発砲します
 ※演武中は危険ですので会場内(白線内)へ絶対に入らないでください

主催 難波田城公園活用推進協議会
 富士見市立難波田城資料館
 協力 興禅寺、清水運輸株式会社、天神社
 南畑第3町会、南畑八幡神社、
 南畑幼稚園、富士見文化会館

難波田城公園まつり

火縄銃演武

会場 難波田城公園 城跡ゾーン

演武スケジュール

- 13時00分 南畑八幡神社にて、参拝
- 13時05分 難波田城公園へ出立
- 14時00分 来賓あいさつ、鉄砲隊入場
- 14時10分 三献の儀、演武開始
- 14時20分 富士見市長あいさつ
- 14時30分 旧金子家住宅前で記念写真

鉄砲隊編成

- 大将 星野光弘（富士見市長）
- 副将 浅井義明（富士見市副市長）
- 大目付 山口武士（富士見市教育長）
- 軍奉行 寺田図書助（川越藩火縄銃鉄砲隊保存会代表）
- 目付 小野澤雅楽（川越藩火縄銃鉄砲隊保存会）
- 目付格 臼井右門（川越藩火縄銃鉄砲隊保存会）
- 目付格小頭 加藤備中（川越藩火縄銃鉄砲隊保存会）
- 小頭 清水上野（川越藩火縄銃鉄砲隊保存会）
- 小頭 長谷部越中（川越藩火縄銃鉄砲隊保存会）
- 小頭 伊藤日向（川越藩火縄銃鉄砲隊保存会）
- 小頭格 久保市佑（川越藩火縄銃鉄砲隊保存会）
- 小頭格 廣佐古安芸（川越藩火縄銃鉄砲隊保存会）
- 銃士 鈴木河内（川越藩火縄銃鉄砲隊保存会）
- 銃士 滝沢修理（川越藩火縄銃鉄砲隊保存会）
- 使番 藤間縫殿（川越藩火縄銃鉄砲隊保存会）
- 士 小黒嘉良（市民公募）
- 士 萩元哲雄（市民公募）
- 士 山本智由（市民公募）
- 士 吉沢憲紀（市民公募）

川越藩火縄銃鉄砲隊保存会の紹介

川越藩火縄銃鉄砲隊保存会（代表 寺田図書助勝廣氏）は、江戸時代の甲冑や武器及び火縄銃を保存し、またそれらの文化を継承するため、平成9年に発足しました。川越をはじめ全国で年間約20回の演武を行っています。「難波田城公園まつり」には平成14年から御出演いただいています。

主な出演歴

埼玉県：小江戸川越春まつり、小江戸川越百万灯まつり、嵐山時代まつり、忍城時代まつり
 福島県：白河市小峰城さくらまつり、十万石棚倉城まつり 千葉県：佐倉時代まつり
 茨城県：日立桜まつり、水戸藩時代まつり、多賀谷城時代まつり その他：江戸東京博物館 姫路城 など



ご協力をお願い
 ・演武中は、大変危険ですので、演武会場内に入ったり横切ったりしないよう、安全確保にご協力をお願いします。

南畑八幡神社と下南畑天神社

江戸時代に描かれた難波田城の城絵図には、城の北東方向に2つの神社が描かれている。最外郭にある「天神」と、城外にある「八幡宮」である。城絵図は、築城の規範として描かれるものであり、無用なものは描かれない。2つの社は鬼門をふさぐ、城の守り神として位置づけられているようだ。

坂東の武士は、八幡と天神を深く信仰していた。平将門の乱の際も、八幡大菩薩と菅原道真の霊が、将門を後押ししたとされる。当時、道真の霊(天神)は、学問の神というより政争に敗れた怨霊として、その威力が信仰されていた。また、天神は農業神としての性格も持っていた。八幡は源義家一族の守り神と位置付けられたことで、さらに東国での信仰が広がった。室町時代には、合戦で敗れた難波田氏の遺領(おそらく南畑地区)が鶴岡八幡宮にあたえられた記録もある。

南畑八幡神社と下南畑天神社が戦国時代にあった確かな証拠はないが、近隣の城館跡でも天神社や八幡宮が付属することが多く、やはり、難波田城の守り神であったと考えた方がよい。

江戸時代に難波田城跡に十玉院が建ち寺子屋が開かれると、天神は学問の神としても信仰されるようになる。また、八幡神社では獅子舞が奉納されるようになった。両社は地元の人々に長く親しまれてきた。